

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月1日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2012

課題番号：22520711

研究課題名（和文）中国新疆ウイグル自治区におけるイスラーム聖地に関する基礎的研究

研究課題名（英文） Basic research on the Islamic sacred sites in Xinjiang Autonomous Region of China.

研究代表者

菅原 純 (SUGAWARA JUN)

東京外国語大学・アジア言語文化研究所・研究員

研究者番号：30420285

研究成果の概要（和文）：

当研究プロジェクトは、中国・新疆ウイグル自治区所在のイスラーム聖地につき、文献情報ならびに実地調査成果に依拠して、その包括的記述研究を試みるものである。具体的な活動としては、旅行記、地方志、史書、聖者伝、文書史料などのマザール関連文献記事の収集と蓄積、カシュガル地区を中心とする組織的実地調査の実施、聖地の記述手法に関する研究パネルの組織、マザールに関する個別研究の推進などを実施した。最終的な成果としては、総見出し数約400件のイスラーム聖地データベースを構築した。

研究成果の概要（英文）：

This research project aims to describe Islamic sacred sites located in Xinjiang Uyghur Autonomous Region of China comprehensively, based on information acquired from written materials as well as results of field researches. Specifically, we have achieved series of research tasks such as collection of mazar-related accounts in written materials (travelogues, gazetteers, historiographies, hagiographies and documentary sources), conducting field researches intensively in Kashgar region, organizing presentation panel focusing on methodology of mazar-description and conducting individual studies on mazars. As an end product of this project, comprehensive data base enlisted over 400 sacred sites has been created.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	1,200,000	360,000	1,560,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：マザール、聖者廟、カシュガル、参詣、ワクフ、文書研究、データベース

1. 研究開始当初の背景

従来、新疆を包含する中央ユーラシア地域において、一般に「マザール mazar」と呼ばれるイスラーム聖地は、「イスラーム信仰」とイスラーム受容以前にさかのぼる「民衆信

仰」の両方の要素を併せ持つ複合的な性格を有する施設として、歴史学、人類学そして民俗学など複数の学問領域において注目され、研究が進められてきた。各分野の先行研究は個別的にそれぞれ優れた成果をあげ、マザー

ルに関する知見の充実と深化に小さからぬ貢献をなしてきた。しかしながら、それらの研究は、依然として個別マザールの研究によるものではなく、新疆に数百座は存在するといわれる参詣地としてのマザールが、総体としてはどのような文化的特徴（地域性）をもち、歴史上いかなる役割を果たしているのかという総体的評価の問題、さらにはそれをふまえた他地域のマザールとの比較、果ては人間の参詣行為というプリミティブな分析軸からの文化的な位置づけの問題などに対しては、依然十分な見通しを与えるものとは言い難い。

さらに近年は中国の経済発展の中、新疆も開発が進められ、そのなかイスラーム聖地もまたその様相を急速に変えつつある。とくに中小規模の聖地については、喪失の危機に瀕したもの（図版 1）も少なくない。当地のイスラーム聖地の記述調査と既存情報の集積・総合は、今まさに喫緊の課題である。



図版 1 カシュガル旧市の「聖地」喪失の一例：旧市エグレクチ小路。上(2005 年)では地域コミュニティの信仰対象であった祠が下(2010 年)では区画整理のため、街区ごと失われている。小規模な「聖地」は当地の開発のなか、急速に失われている。

2. 研究の目的

本研究は、前項の前提に立ち、新疆のマザールに対する包括的かつ計量的アプローチを可能とする基盤の構築、すなわち網羅的にマザールの基本情報を総合し、データベースを

構築し、当地域のイスラーム聖地に関する包括的な『便覧』の編纂を最終的な目的に置く。実地調査を通じて喪失の危機にあるマザールの情報を取得し、それと文献情報を統合したデータリソースのインターネットでの公開を通じて、国内外ならびに現地研究者の間で新疆のマザールに関する網羅的な基礎情報の共有を促進する。これは個別マザールに関する研究の効率を向上させるのみならず、総体としての新疆のマザール像の把握、ひいてはマザール研究の新しい段階として、他地域の事例との比較研究への道を拓くものである。さらにここで網羅的にマザールに関する情報が出そろふことは、計量的な新疆のイスラームの実態（たとえば参詣による人口の移動や、マザールを軸とする社会構造等）把握への材料としても期待できる。

3. 研究の方法

以下の 3 つのタスクを実施する。

- (1) 既存情報の総合…旅行記、調査報告、研究文献、地方志、そして史資料（年代記、聖者伝、文書史料）など、現存する文字資料から当該地域のイスラーム聖地に関する情報を網羅的に抽出し、個別研究を推進するとともに、予め策定した項目につきデータベースの登録を行いイスラーム聖地情報を集積する。
- (2) 実地調査（カシュガル）…当研究課題の主たる活動は文献調査を中心とするが、近年「経済特区」指定により急速な開発の途上にある「カシュガル地区」のイスラーム聖地については、これを重点調査地区として集中的な調査を実施する。
- (3) 成果のリリース…①プロジェクト・ウェブページの公開、②国内外の学会での研究成果報告、③国際コロキウム、国際学会でのパネル等の組織、④『新疆ウイグル自治区イスラーム聖地便覧』の編纂、などを実施する。

4. 研究成果

- (1) 既存情報の総合については、本(2013) 年 5 月の時点で 410 座のイスラーム聖地に関する 15 項目の情報（①マザールの名称、②マザール名称のヴァリエント、③行政上の所在地、④所在地 GPS 測位データ、⑤附属施設、⑥行政上の位置づけ、⑦管理要員、⑧ワクフ、⑨参詣の概況、⑩現世利益、⑪伝承、⑫書写史料、⑬レファレンス、⑭総合的記述、⑮画像データ）のデータベースへの登録を行った。その地区別の内訳は次の通りである。

地区名	登録聖地数
カシュガル地区	158
ホタン地区	117
キジルスー・キルギス自治州	12
アクス地区	20

トゥルパン地区	25
クムル地区	53
イリ地区	3
バインゴリン・モンゴル自治州	7
タルバガタイ地区	1
その他(不明)	14
計	410

地区別登録マザール数

カシュガル地区が聖地数において突出しているのは、既存情報が他地域に比べ豊富であることに加え、重点的に実地調査を実施したことが理由として挙げられる。その他の地域については、オアシス農耕地域で歴史的にも一定以上の人口を有するアクス地区、トゥルパン地区はさらなる史料の収集、現地調査の実施によっては数量が飛躍的に増加する可能性があり、この点は今後の課題としたい。

(2)実地調査については、研究代表者ならびにカウンターパートである新疆大学人文学院のチームが 2010 年にカシュガル地区において集中的な調査を実施した。その成果は上述のデータベースに収録されている。

(3)成果のリリースとしては、(1)(2)の主たる成果をプロジェクト・ウェブページにて公開するとともに、次項でリストアップした論文や、国内外学会でのパネル組織(マザール記述研究の手法を検討課題とするパネル：口頭報告⑨)や研究報告を行った。さらに構築データベースもウェブページでの公開を目前としてデータの移行を進めている(2013年5月現在作業中)。将来的には参照者とインタラクティブな形でデータの修正、増補を経てその紙媒体版を『便覧』として公刊の予定である。

それら当研究課題の個別的な研究の成果として特筆すべきは、当研究課題の包括的アプローチを通じて、複合的な学問領域の協業の結果としての成果がいくつか得られたことがあげられる。具体的には、カシュガル地区所在の伝統的に社会的影響力の大きな聖地として知られるオルダム・マザールについて①従来の歴史研究成果の蓄積と②カウンターパートである現地研究者の民俗学的アプローチ、さらには③直近のワクフ文書(図版2)研究の結果、マザール参詣に直結する参詣路の歴史的な社会経済関係がワクフ不動産の分布という面から把握できることとなったことが指摘できよう(口頭報告④⑧)。また現在は参詣が廃れ、社会的影響力を喪失したいくつかの聖地が過去においては地域社会において重要な信仰拠点であった歴史事実が複数発掘され、それが民俗学・人類学研究の新たなアプローチに還元されていく

という方向性も浮上してきた(代表的な事例のひとつが、図版3に示したムシュのマザールである)。こうした新しい研究の方向性は当研究課題の包括的な手法によって生み出されたものと言える。



図版2 新疆大学人文学院所蔵ワクフ文書(19世紀): 当文書は当時のヤークーブ・ベグ政権下カシュガルのユースフ・カーディル・ハーン・マザールの管理人叙任に係る文書(*tauliya*)である。夥しい数のワクフ不動産が列挙されており、その分布は当該聖地の広域的な社会的影響力を示している。



図版3 ムシュ(木什)のマザール(カシュガル地区): 当研究課題の史料研究の過程で見出された19世紀のワクフ文書の記事と実地調査により、地域社会における伝統的な影響力が新たに確認された聖地の一つ。

当研究課題の活動を通じて、聖地ごとの情報の精粗はあるものの、新疆ウイグル自治区における400余という多数の聖地情報が一つのプラットフォーム上に集積されたのは初めての試みである。このデータに基づき、このデータを叩き台としての今後のさらなるデータ整備への道が開かれた点は継続的な研究の発展の上で重要な価値を有している。あ

わせて、このデータ・ベースの出現は、新疆のイスラーム聖地につき、計量的な分析をはじめとする包括的研究を行う環境が整備されたことを意味するのである。その一事をもって、当プロジェクトは所定の目的の大部分を達成したと言えるであろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

① SUGAWARA Jun (菅原純), "Islamic Legal Order in the Northwestern Frontier: Property and Waqf Litigation of a Sufi Family in Kashghar(1841-1936)", Zsombor Rajkai and Ildiko Beller-Hann(eds.), *Frontiers and Boundaries: Encounters on China's margins*. 査読あり、Wiesbaden: Harrasowitz, 2012, pp. 177-201.

② Rahile DAWUT (ラヒラ・ダウト), "Studies on the Function and Evolution of the Uyghur Mazar", *Journal of Northwest University for Nationalities, Philosophy and Social Science*. No.2 2011

③ 古丽巴哈尔·胡吉西 (グルバハル・ゴジェシュ), 「柯尔克孜族麻扎民俗与英雄史诗<玛纳斯>」, 『民族文学研究』、査読あり、2010年第4期。

[学会発表] (計16件)

① Rahile DAWUT (ラヒラ・ダウト), "Oral Epic Narratives(Dastan) among the Uyghur", 第49回野尻湖クリルタイ(日本アルタイ学会), 2012年07月14日~16日、藤屋旅館

② Rahile DAWUT (ラヒラ・ダウト), "Women's Sufi Community in a county in Turpan, Xinjiang" 科学研究費補助金・基盤研究C「中国・新疆ウイグル自治区におけるイスラーム聖地に関する基礎的研究」, 東洋文庫・研究グループ「近現代中央ユーラシアにおけるイスラームと政治権力」共催講演会、2012年7月10日、東洋文庫

③ 菅原純 「壮麗なるカシュガル：中央アジアに開かれた「中国の西大門」の過去と現在」筑波大学中央アジア事務所主催講演会「中央アジア世界と日本」(第9回)、招待講演、2012年7月3日、筑波大学学生会館

④ SUGAWARA Jun (菅原純) "Waqf Domains in

Kashghar: Dimensions and Distributions of Pious Endowments for Mazars in the Early 20th Century", *Kashgar Revisited: Workshop to commemorate the 10th anniversary of the death of Ambassador Gunnar Jarring*. University of Copenhagen. 主催: Asian Dynamics Initiative The Nordic Institute of Asian Studies, The Department of Cross-Cultural and Regional Studies, University of Copenhagen. 2012年5月10-12日, Nordic Institute of Asian Studies, University of Copenhagen, Leifsgade 33, 3rd floor, 2300 Copenhagen(デンマーク)

⑤ Rahile DAWUT (ラヒラ・ダウト), "Ordan Mazar: The Intersection of Varied Belief Systems in Trans-Cultural Xinjiang" *Kashgar Revisited: Workshop to commemorate the 10th anniversary of the death of Ambassador Gunnar Jarring*. University of Copenhagen. 主催: Asian Dynamics Initiative The Nordic Institute of Asian Studies, The Department of Cross-Cultural and Regional Studies, University of Copenhagen. 2012年5月10-12日, Nordic Institute of Asian Studies, University of Copenhagen, Leifsgade 33, 3rd floor, 2300 Copenhagen(デンマーク)

⑥ SUGAWARA Jun (菅原純) "Swollen Memory of 'Martydom': Genesis and Development of the Legend of Abdurrahman Khan" *Workshop, Beyond 'the Xinjiang Problem'*, 2011年11月3-4日, Hedley Bull Centre, The Australian National University, Canberra (オーストラリア)

⑦ 菅原純 「膨張する『殉教』の記憶：新疆ムスリム反乱(1864~65)史をめぐって」、第13回チベットの歴史と文化学習会「シンポジウム 周縁からのチベット～歴史と信仰～」, 招待講演、2011年10月30日、文京区民センター

⑧ SUGAWARA Jun (菅原純) "Mazār Waqf Domains in Kashghar: Their Dimensions and Distributions in the Early 20th Century" *Symposium on Sufism and Islam in Central Asia*, 招待講演、2011年10月22日, Princeton University, NJ(アメリカ合衆国)

⑨ SUGAWARA Jun (菅原純) "Constructing Comprehensive Database of the Islamic Sacred Sites(mazars) in Xinjiang" *Central Eurasian Studies' Society Twelveth Annual Conference*, 2011年9月22日, Ohio State University, Columbus, OH

(アメリカ合衆国)

⑩ Rahile DAWUT (ラヒラ・ダウト), "Pilgrimage, Sufism and Oral Narratives : Documenting Uyghur Religious Narratives in Xinjiang, China", 招待講演、2011年3月9日、Royal Anthropological Institute (連合王国) .

⑪ Rahile DAWUT (ラヒラ・ダウト), "Sufism, Pilgrimage & Archival Advocacy : Documenting Uyghur Sufism in Xinjiang". *The Film & Advocacy Series*, 招待講演、2011年3月2日、University of Kent, Canterbury (連合王国) .

⑫ Rahile DAWUT (ラヒラ・ダウト), "Shrines among the Uyghurs", Centre for Research in the Arts, Social Sciences and Humanities, 招待講演、2010年12月9日、University of Cambridge (連合王国) .

⑬ 菅原純「変貌する都市と聖墓:カシュガルにおける聖墓の過去と現在」、2010年度後期・日本イスラム協会公開講演会「イスラム世界の墓廟参詣」、招待講演、2010年11月23日、東京大学

⑭ SUGAWARA Jun (菅原純) "Debt-Related Contracts in Early Twentieth Century Xinjiang" Central Eurasian Studies Society Eleventh Annual Conference. (2010.10.31). Kellogg Hotel & Conference Center, Michigan State University(アメリカ合衆国)

⑮ SUGAWARA Jun (菅原純) "Reconsidering the religious policy of Yaqub Beg : Accounts from documents and relics" 「歴史的な中国新疆と中亞」国際学術研究会主催:《新疆通史》編撰委員会、新疆維吾爾自治区社会科学院、中国社会科学院歴史研究所。2010年8月20日、新疆烏魯木齊市環球大酒店(中華人民共和国)

⑯ SUGAWARA Jun (菅原純) "Models and realities : Format matters in real estate deeds under the legal pluralism in provincial Xinjiang" *Colloque international, Lecteurs et copistes dans les traditions manuscrites iraniennes, indiennes et centrasiatiques*, 招待講演、2010年6月17日、Salle Las Vergnas, Universite Sorbonne nouvelle Paris3(フランス)

[図書] (計1件)

⑰ Rahile DAWUT (ed.), *The Meshrep Culture of Uyghurs*, Xinjiang Art publishing House, 2011 (In Uyghur)

[その他]
ウェブ・ページ
<http://www.uyghur.jp/mazar2010s/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

菅原 純 (SUGAWARA JUN)

東京外国語大学・アジアアフリカ言語文化研究所・研究員

研究者番号 : 30420285

(2) 研究協力者

ラヒラ・ダウト (RAHILE DAWUT)

中国新疆大学・人文学院・教授

(3) 研究協力者

グルバハル・ゴジェシュ (GULBAHAR GHOJESH)

北京師範大学・大学院・博士課程